

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[48]歳、 勤続年数[30]年、 現場経験年数[30] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 B	年齢[54]歳、 勤続年数[32]年、 現場経験年数[27]年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 B が	火災の状況から送水圧力を上げるよう指示した。	
経過 2	当事者 A が	スロットルを操作（加圧）してタンク送水コックを開いた。	
経過 3	当事者 B が	急に放水圧力が低下したため再度送水上げるよう指示した。	前傾放水姿勢を止め、立った状態
経過 4	当事者 A が	タンク送水コック開放後エンジン回転音が高くなったことが気になった。	
経過 5	当事者 A が	タンク送水コック操作ミスによる圧力低下であると確認しコックを閉じた。	スロットル（放水圧力）は下げなかった。
経過 6	当事者 A が	急激な放水圧力により後方に振られ、筒先が顔面にぶつかり受傷し転倒した。	
経過 7	当事者 A が	当事者 B が後方に倒れたのを確認、放水口を閉じてスロットル（放水圧力）を下げた。	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。資機材の操作がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・ 活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	はい
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・ 隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

小隊長等から様々な集中力強化、焦り等の対策についての助言を受けるとともに、自らも精神統一について研究を行なった。

○装備・資機材の対策について

装備、資機材の点検、整備を行ない、取り扱いについては、各個訓練、分隊訓練等を継続して行なった。

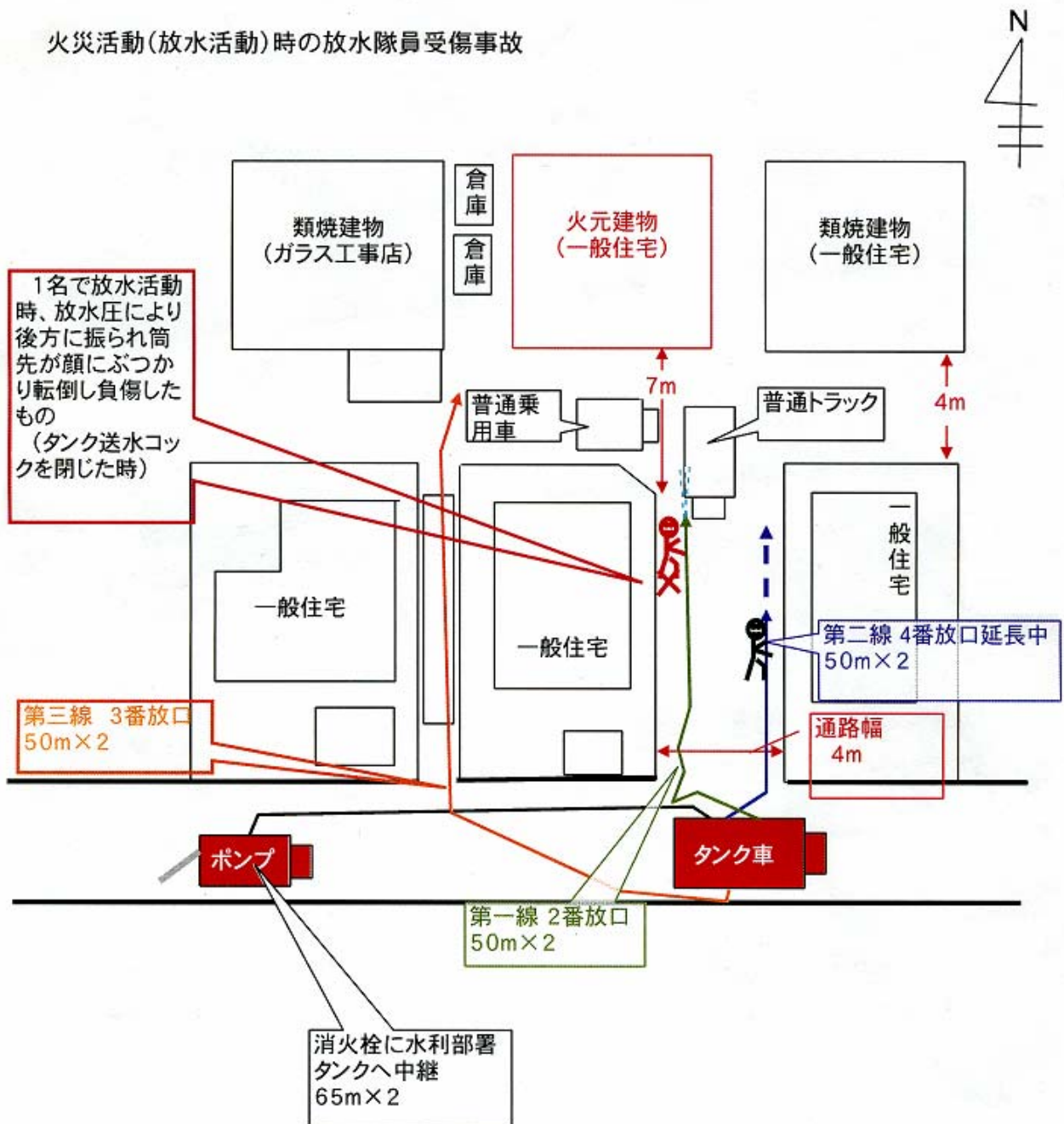
○活動環境の対策について

常に自己の体調を管理する。

○指揮・情報伝達の対策について

分隊、小隊及び中隊での図上訓練、実践訓練を行う際に、各指揮者の方針、方策を事前に把握し、理解しておく。

火災活動(放水活動)時の放水隊員受傷事故



○受傷事例：火災活動初期において、機関員の誤操作により放水隊員が反動力に耐えることができず、筒先が顔面を直撃
（同様の体験は、初めて体験した。）

(09J0026)

・発生日時：平成20年7月6日 午前3時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		機関員／消防士長 ・年齢 48歳 ・勤続 30年 ・現場 30年 ・同様の活動：頻繁	隊員／消防司令補 ・年齢 54歳 ・勤続 32年 ・現場 27年 ・同様の活動：頻繁	
出動指令 出動途上 現場到着	建物火災の出動指令			火災への消防出動
	出火建物南側の通路	現場到着		
		放水活動開始		
活動初期			火災の状況から送水圧力を上げるよう指示した	
		スロットルを操作(加圧)してタンク送水コックを開いた		
	急に放水圧力が低下			
			急に放水圧力が低下したため再度送水圧力を上げるよう指示した	前傾放水姿勢を止め、立った状態
		タンク送水コック開放		
	タンク送水コック開放後エンジン回転音が高くなった			
		タンク送水コック開放後エンジン回転音が高くなったことが気になった		
活動降中期		タンク送水コックの操作ミスによる圧力低下であると確認しコックを閉じた		スロットル(放水圧力)は下げなかった
			急激な放水圧力により後方に振られ、筒先が顔面にぶつかり受傷、転倒した	
		隊員Bが後方に倒れたのを確認、放水口を閉じてスロットル(放水圧力)を下げた		

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因：行動の実行に問題があった。
- ・危険事象の対応方法を知っていた。
 - ・集中力、注意力があった。
 - ・資機材の操作がうまくいった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。
 - ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
 - ・活動に対する経験が不足していた。
- (装備・資機材について)
- ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。
- (活動環境について)
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。
 - ・狭隘な場所であった。
 - ・野次馬が多かった
- (指揮・管理について)
- ・隊員が不足していた。